普及活動情勢報告（平成 30 年 10 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

大規模土地利用型法人の経営改善～新たな栽培品目の検討～

野菜の定植作業中

9 月 25 日、本山町にある（株）カワムラファームで、JA グループの新品目導入事業を活用し、露地野菜の栽培実証ほを設置しました。

当日は、従業員と JA や普及所の職員、計 6 人でキャベツ、ハクサイ、ブロッコリーの苗を定植しました。普及所は勉強会の開催や定植作業を指導しました。

（株）カワムラファームが葉菜類を栽培するのは初めてですが、代表取締役は「何でもやってみないと」と常に前向きに取り組んでいます。

気象条件に左右される作型ですが、法人の新たな有望品目となるよう今後も定期巡回を行い、栽培を支援してきます。

夏秋産地を維持していくために～「シシトウ部会」現地検討会を開催～

部会の未来について協議

9 月 25 日、JA 土佐れいほくシシトウ部会は、土佐町で現地検討会を開催し、生産者 12 人が参加しました。

普及所からは、今後のかん水・追肥管理、青枯病対策について説明するともに、高接ぎ木の実証状況を報告しました。

また、栽培戸数・面積が年々減少する中、産地を維持・拡大する取組について皆で協議しました。

生産者からは、「pF メータを活用した灌水管理によって増収するのであれば、部会全体で購入してはどうか」、「個々が、現在の出荷量を少しでも増加させるよう頑張ろう！」といった声が聞かれました。

今後、普及所は収量の増加、新規栽培者の確保に向けた部会活動を支援していきます。

部会の将来方向を意見交換～ＪＡミニトマト部会が検討会を開催～

将来方向を熱心に議論

9 月 28 日、ＪＡ土佐れいほくミニトマト部会（10 戸）は、部会の方向性を話し合う会を大豊町で開催し、農家 6 人が参加しました。

部会は、JA 合併を来年に控える中、産地の拡大に向けて、生産者や部会が問題を解決することや関係機関等へ協力を要請することについて検討しました。

普及所は、会の開催を支援しました。

農家からは「新規就農に伴い面積の拡大が予想されるので、選果・パック詰め体制の整備が必要である」、「次年度から品種を変更し、へた落ち等の問題解決をしたい」等の声がありました。

普及所は、今回示された方向性に添って、各農家の生産安定と産地拡大が図れるよう支援します。

郷土の味を伝えていこう！　～おおとよ小学校郷土料理伝承講習会～

集中して材料を切る生徒

10 月 4 日、大豊町農漁村女性グループ研究会 5 人が、大豊町立おおとよ小学校で、5 年生 8 人に大豊町の郷土料理（「銀ブロウ寿司」「こんちん」「ぜんまいの油炒め」「みょうがだんご」）を教えました。

普及所は、企画調整やレシピ等資料作成を支援しました。

女性グループ員が生徒に教えながら皆で作り、生徒からは「こんちんが美味しかった」「料理が難しいことがわかった」「おいしい料理ができてよかった」などの感想が聞かれました。また、初めて食べる生徒も多いことがわかりました。

今後とも普及所は、地域で郷土料理が受け継がれるよう支援していきます。

モヒカンネットにｔｒｙ！　～ホウレンソウ部会現地検討会～

モヒカンネットの
栽培状況を見学

10 月 5 日、JA 土佐れいほくホウレンソウ部会は、大豊町で現地検討会を開催し、6 人が参加しました。

普及所は、秋冬播き栽培での栽培管理や露地でも利用できる簡易雨よけモヒカンネットでのトンネル栽培について指導しました。また、近年の出荷量が減少していることから、産地の維持拡大に向けた取組について検討しました。参加者からは、果菜類の後作栽培や水稲栽培農家への呼びかけ、モヒカンネットの利用による露地栽培面積を拡大すること等の意見がありました。

普及所は、地域特有の品目として、生産の維持や拡大について生産者と一緒に検討していきます。

農業の担い手確保・次の一手は？
～嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会・農業振興計画チーム会～

担い手確保を検討する
チーム員

10 月 12 日、普及所において行政や JA で組織する「嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会」の「嶺北地域農業振興計画（以下振興計画）」チーム会が開催され、普及所は会の運営を支援しました。今回のチーム会では「地域の農業を支える担い手」をテーマに、集落営農組織や中山間農業複合経営拠点の「振興計画」への位置づけや、新たな担い手の確保について話し合いました。

県外からの担い手を確保するためには、多くの人に地域の農業の魅力を届けることが重要であるとして、町村の移住部署と連携した取組を検討しました。

普及所は今後とも「振興計画」の策定を支援し、嶺北地域の農業振興を目指します。

大国鍋（だいこくなべ）を食べてみんかえ　～伊勢川営農組合れいほく八祭（はちまつり）初参加～

八祭で大国鍋や梅漬けを販売

10 月 14 日、土佐町さめうらダム直下のふれあい広場にて、れいほく八祭が開催され、土佐町の集落営農組織「伊勢川営農組合」が初めて出店しました。

組合員が栽培した米や梅を原料にしたおにぎりや梅漬けとともに、伊勢川産の野菜やシシ肉が入った具だくさんの「大国鍋」を販売しました。購入者からは「具がたくさんあってよかった」「肉をもっと増やしてほしい」などの声が聞かれました。売れ行きも良く、参加した 8 人の組合員も手応えを感じたようでした。

普及所は大国鍋の改良につなげるため、味や価格についてのアンケート調査を行いました。

今後も普及所は、アンケート結果を基に反省会や 12 月のチョロギ収穫体験イベントなど組織活動を支援していきます。

青果ユズの出荷拡大に向けて　～青果ユズ出荷検討会～

出荷検討会と
箱詰されたユズ

10 月 17 日、大豊町の JA 土佐れいほく出荷場で、柚子部会員 12 人の参加を得て出荷検討会が開催されました。

部会員が持ち込んだﾕｽﾞ玉を JA 担当者が規格毎に選別し、これを参考に本年度の選別基準を全員で検討して決めました。

普及所は病害虫や生理障害等による規格落ちの要因と対策を説明しましたが、障害の少ない園地の管理方法等について、部会員同士で教え合う姿が見られ、有意義な検討会になりました。

青果出荷量は平成 27 年度には 5t にまで落ち込んでいましたが、現在では 30t を超えるまでに増加し、部会活動にも活気が出てきました。今後は現地検討会等の相互研鑽の場を充実し、青果出荷量の更なる拡大を図っていきたいと考えています。

目指せ！甘長トウガラシの産地化！

生産者と話しながら導入を検討中

JA 土佐れいほくでは、本年度から新品目として甘長トウガラシの栽培に取り組んでいます。栽培管理技術の向上を目指し、他産地の篤農家の技術を学ぶため、10 月 18 日、JA 津野山で開催された「土佐甘とう生産者交流会」に栽培農家 2 戸と、次年度以降に栽培を検討している農家 3 戸が参加しました。

会では仕立てや整枝の方法など、栽培管理について、他産地の生産者と意見交換したり、労力や規格等について情報収集するなど貴重な場となりました。

普及所は、甘長トウガラシを有望品目として普及させるため、今後も JA と協力しながら、技術の向上と新規栽培者の確保に努めます。